

## 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和7年度 第6回  
富田林市交通会議 資料1-3

協議会名： 富田林市交通会議

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
近鉄バス(株)	北野田線(富田林系統) 富田林駅～北野田駅 (平尾経由)	具体的な取組内容として、地域公共交通計画を策定し、各系統の課題を検討し、維持に努めた。また、引き続きバス事業者専用のICカードによる、利用促進を図った。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	B 輸送人員は、目標には達しなかったが、前年度比100.3%であった。収支率については、人件費の増加や燃料費の高騰等の費用の増加により、収支率の改善には至っていない。	昨年度と比較し、目標には達しなかったが、輸送人員については維持できていると考えられる。また、収支率については、人件費の増加や燃料費の高騰等の費用の増加により、収支率の改善には至っていないため、他の取組事例も参考にし、効果ある生産性向上の取組について十分に検討し、引き続き利用促進に努め、利用者数の維持・増加に努めていく。
近鉄バス(株) 南海バス(株)	(1)喜志循環線 喜志駅-上宮学園前-喜志駅 (2)阪南線 喜志駅-河南橋、東山-喜志駅 (3)さくら坂循環線 富田林駅-山中田、河南町役場、さくら坂4丁目-富田林駅 (4)千早線 富田林駅-寛弘寺-千早赤阪村立中学校前	-	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された	- 収支率のR6年度実績は45.3%であった。  - 実績に基づいた経常経費の算出により、行政負担額のR7年度予算額は140,915千円であった。  - 利用促進の広報等により、金剛ふるさとバスの年間利用者数はR6年度実績は904,540人であった。	スマホ定期券の拡充や専用サイトのリニューアルにより利用促進に努めた。収支率の悪い系統も個別に存在するため、更なる利用促進に努めていく(イベント等)。  利用促進と効率的な運行体制の維持に努め、持続可能な運行と財政負担の軽減を両立させていく。  スマホ定期券の拡充や専用サイトのリニューアルにより利用促進に努めている。個別の路線で見たとときに収支率の悪い系統も存在するため、更なる利用促進に努めていく(イベント等)。

## 事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和7年度 第6回  
富田林市交通会議 資料1-3

令和 年 月 日

協議会名:	富田林市交通会議
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>富田林市においては、通勤・通学、買い物、通院等の日常生活に係る移動を補助する役割を担う地域公共交通である、近鉄長野線と南海高野線が南北に運行している。また、喜志駅・富田林駅・金剛駅より路線バス・レインボーバスが市内及び近隣市町村とを結んでいる。また、主に駅前からタクシーも運行している。</p> <p>しかしながら、人口減少や自家用車の普及の影響を受け、本市や事業者の運営努力だけでは、収支悪化による行政負担の増加をはじめ、路線の維持が難しく運行に様々な問題が生じている。</p> <p>加えて、令和5年12月20日付けで金剛自動車株式会社が運行する金剛バスが廃止されたことを受け、それ以降は、富田林市、太子町、河南町及び千早赤阪村地域公共交通活性化協議会が金剛ふるさとバスの運行を開始したが、金剛バスの運行時より便数を減らしたこともあり、利便性の高い公共交通を望む住民の声も少なくない。</p> <p>このため、地域公共交通確保維持改善事業により、地域間幹線系統の喜志循環線・阪南線・さくら坂循環線・千早線に加え、地域内フィーダー路線である東條線・北大伴線・さくら坂循環線(補完)・河内線・石川線・白木線・阪南線(補完)・千早線(補完)を確保・維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>